

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第42週 (10/17-10/23) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		42週	41週	40週	39週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	16	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	26	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	10/17-10/23	10/10-10/16	10/3-10/9	9/26-10/2	10/10-10/16
			42週	41週	40週	39週	41週
小児科	RSウイルス感染症	○	12 0.67	10 0.56	27 1.69	16 0.89	201 1.49
	咽頭結膜熱		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	18 0.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21 1.17	22 1.22	12 0.75	25 1.39	278 2.06
	感染性胃腸炎	○	89 4.94	75 4.17	76 4.75	83 4.61	331 2.45
	水痘		5 0.28	0 0.00	3 0.19	4 0.22	43 0.32
	手足口病		32 1.78	27 1.50	39 2.44	51 2.83	320 2.37
	伝染性紅斑		2 0.11	2 0.11	2 0.13	2 0.11	12 0.09
	突発性発しん		15 0.83	4 0.22	7 0.44	13 0.72	45 0.33
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.04
	ヘルパンギーナ		7 0.39	7 0.39	20 1.25	27 1.50	80 0.59
	流行性耳下腺炎		8 0.44	2 0.11	5 0.31	6 0.33	52 0.39
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		9 0.32	1 0.04	2 0.08	4 0.14	47 0.22
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	1 0.20	3 0.75	3 0.60	11 0.32
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	2 2.00	2 2.00	1 1.00	15 1.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	男性	70歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	E型肝炎	女性	30歳代	血清IgA抗体の検出
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	急性脳炎	男性	10歳代	先行感染症症状

・第42週は、結核4件(199)、E型肝炎1件(6)、急性脳炎1件(25)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第42週のコメント

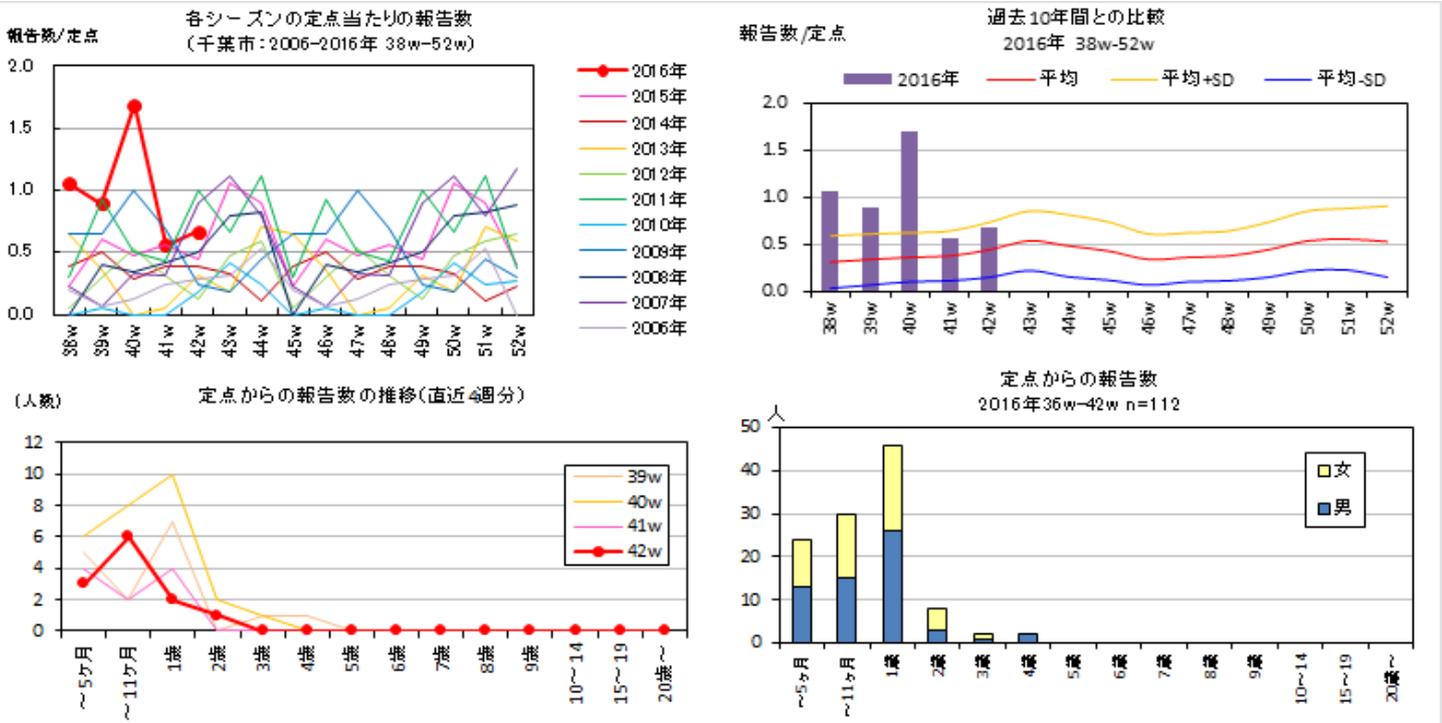
<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<感染性胃腸炎> 前週より増加し4.94となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第41週は、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、埼玉県、徳島県、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の第42週は前週より増加し0.67となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.33/定点)で最多となっており、同区の6～11か月で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第42週までの累積報告数(n=112)によると、性別では男性が53.6%(60名)、女性が46.4%(52名)で、年齢階級別では1歳(41.1%:46名)、6～11か月(26.8%:30名)、0～5か月(21.4%:24名)の順に多くなっています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの第41週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、島根県、大分県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第42週は、前週より増加し4.94となりました。過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。例年の発生動向によると、今後は増加していく傾向にあります。区別の発生状況は、緑区(10.3/定点)で最多となっており、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第42週までの累積報告数(n=529)によると、性別では男性が56.7%(300名)、女性が43.3%(229名)で、年齢階級別では1歳(18.3%:97名)、4歳(13.0%:69名)、6～11か月(11.5%:61名)の順に多くなっています。

